
平成26年度 病害虫発生予報 第6号

平成26年9月19日
栃木県農業環境指導センター

○イチゴの病害虫は定植後の初期防除が重要です！ ○ハスモンヨトウ・オオタバコガの多発生が継続しています！

予想期間 9月下旬～10月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根拠 ・ 現在の発生量はやや多い（平年比：ほ場率255%）。(+)
・ 向こう1か月の平均気温は低い見込みで、日照時間は少ない見込み。(±)
- (3) 対策 ・ 発病株は見つけ次第取り除き、ほ場外で処分する。
・ 水滴の飛散等によって伝染するので、水の跳ね返りがないようなかん水を行う。
また、茎葉のぬれ時間が長ならないよう、かん水は晴天日の午前中に行い、曇雨天日及び夕方のかん水を控える。
・ 発生の恐れがある場合には、セイビアーフロアブル20等を散布する。
・ 発病株が見られたら、速やかにサンリット水和剤等を散布する。
- (4) 備考 ・ [植物防疫ニュースNo.8 \(いちご：炭疽病\)](#)、[植物防疫ニュースNo.10 \(いちご：炭疽病・その他土壌病害\)](#)を当センターHPに掲載中。
-

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量： **多い**
- (2) 根拠 ・ 現在の発生量はやや多い（平年比：ほ場率153%）。(+)
・ 向こう1か月の平均気温は低い見込みで、発生に適している。(+)
- (3) 対策 ・ 軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
・ 現在発生が見られなくても、今後発生する可能性があるため、保温開始前からフルピカフロアブルやベルコートフロアブル等を散布する。
・ 発生が見られたらアミスター20フロアブル等を散布する。
-

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根拠 ・ 現在の発生量はやや多い（平年比：ほ場率108%、発生株率181%）。(+～±)
・ 主要薬剤の殺虫効果が低下しており、密度抑制が困難である。(+)
・ 向こう1か月の平均気温は低い見込みで、増殖に不適である。(-)
- (3) 対策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
・ 天敵導入を予定する場合、導入時にハダニ類が多いと失敗しやすい。定期的に気門封鎖剤などを散布し、ハダニ類の増殖を抑制する。
・ 発生が見られたら葉裏のハダニ類を洗い流すように気門封鎖剤を約5日間隔で複数回散布する。
・ 葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
・ 葉の傷みを防ぐため、高温時や乾きにくい雨天日の散布を避ける。
- (4) 備考 ・ [「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。
-

4 大豆・野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量： **多い**
- (2) 根拠 ・ 9月第2半旬までのフェロモントラップへの成虫誘殺数が多い。(+)
・ 向こう1か月の降水量は平年並み。(±)
- (3) 対策 ・ 定期的にほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
・ ハスモンヨトウの幼虫は齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期に薬剤を散布する。
- (4) 備考 ・ [植物防疫ニュースNo.12 \(大豆・野菜類・花き類：ハスモンヨトウ・オオタバコガ\)](#)をホームページに掲載中。

5 野菜類・花き類 タバコガ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 9月第2半旬までのフェロモントラップへの誘殺数が多い。(+)
・ 向こう1か月の降水量は平年並み。(±)
- (3) 対 策 ・ 植物組織内部に食入すると薬剤防除が困難となるため、発生初期に防除する。
・ 浸透移行性の高い薬剤の使用も効果的である。
・ 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
・ 被害部位はほ場外に持ち出して適切に処分する。
・ 果実や花、頂芽などに寄生するため、防除が遅れると被害が大きくなる。寄生されやすい部位をこまめに観察し、虫糞や食入孔を確認する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュースNo.12 \(大豆・野菜類・花き類：ハスモンヨトウ・オオタバコガ\)](#) をホームページに掲載中。

6 その他の病害虫

		現 況	発生予想			現 況	発生予想
いちご	アブラムシ類	平年並	平年並	トマト	コナジラミ類	—	平年並
	アザミウマ類	—	平年並	ねぎ	アザミウマ類	やや多	やや多
きゅうり	うどんこ病	やや少	平年並	なす	アザミウマ類	やや多	多
	べと病	平年並	やや多	きく	ハダニ類	多	多

○水稲の縞葉枯病の拡大を防ぎましょう

・ 縞葉枯病が発生したほ場の再生稲（ひこばえ）は媒介虫のヒメトビウンカの増殖源と縞葉枯ウイルスの獲得源となります。早期の丁寧な耕起により次年産の本病拡大を防ぎましょう。

○トマト黄化葉巻病 (TYLCV)

・ TYLCVはタバココナジラミによって媒介され、冬春トマトで発生が多く見られています。媒介虫や感染源となる罹病植物を施設内に「入れない」対策の徹底が重要です。

※[植防ニュース \(速報No. 14\) 「タバココナジラミ防除を徹底し、トマト黄化葉巻病を防ぎましょう！」](#)参照。

○いちごのアザミウマ類

・ 頂花房の開花が10月上旬以前から見られる施設では、秋からアザミウマ類が発生しやすく、翌年の発生も早くなる傾向にあるため、注意が必要です。

○ナシ黒星病 (秋季防除)

・ 病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となるため、収穫終了後は徒長枝の先端までまんべんなく薬液がかかるよう丁寧に薬剤散布を行い、園内外の落葉を集めて適切に処分しましょう。防除の際は周辺へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意しましょう。

※[植防ニュース \(速報No. 15\) 「ナシ黒星病の秋季防除を徹底しましょう！」](#)参照。

1か月気象予報（予報期間9月13日から10月12日 9月11日気象庁発表）

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は低い確率70%です。2週目は平年並の確率50%です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気温	40%	40%	20%
○降水量	30%	40%	30%
○日照時間	40%	30%	30%

NEWS & INFORMATION

☆「栃木県農薬管理指導士」養成研修（11月20日、21日）・更新研修（11月20日）が開催されます。申込期間が10月1日～31日となりますので、特に更新対象者の方はお忘れなく申込みください。詳しくは農政部経営技術課環境保全型農業担当までお問い合わせください。

Tel(028)623-2286

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問い合わせください。

<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>

病害虫情報発表のお知らせは「[農政部ツイッター\(@tochigi_nousei\)](#)」でも発信中です。